

PRAEVIDENTIA DAILY (12月8日)

昨日までの世界：どうにもとまらない～

先週金曜は、米非農業部門雇用者数が+32.1万人増と予想外の大幅増加となり、時間当たり賃金も前月比+0.4%と予想を大幅に上回る上昇となったことから、米利上げ開始が前倒しになる可能性が強く意識され、米中長期債利回りの大幅上昇（10bps以上）と共にドルが全面高となった。発表前からドルは上昇していたが、当社が懸念していた利食いによるドルはなかった。特に対円、対ユーロ、対豪ドル、対NZドルなどで米ドル高が顕著で、ドル/円は一時121.68円へ大幅続伸、ユーロ/ドルは一時1.2271ドルへ反落し前日のECB政策理事会後の反発が全て帳消しとなり、豪ドル/米ドルは0.8311ドルへ下落、いずれ米ドルが年初来高値を更新した。

またユーロ圏では、独FAZ紙がユーロ圏中銀関係者の発言として「12月理事会で1兆ユーロ以上の債券買入が討議された」と報じたことや、格付け機関S&Pがイタリアのソブリン格付けをトリプルBからトリプルBマイナスへ1段階引き下げるなど、ユーロ安材料もあった。なお、Weidmann独連銀総裁は、「ECBの金融政策はドイツにとって緩和的過ぎる」「ユーロ圏では日本などで講じられた方式は使えない」などと量的緩和に否定的な発言をしているが、Draghi総裁がECB政策理事会後の記者会見で全会一致を追求しない姿勢を強調していることから、今後ドイツ等の反対が大きな障害として意識されなくなるかもしれない。

この間、カナダドルは、米国と同時発表のカナダ雇用統計で雇用者数が-1.07万人と予想外の減少となったほか、原油価格が続落したにも拘らず、対米ドルでの下落は0.5%程度と限定的だった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+1.4	+0.10	+0.10	+0.00	+0.06	+0.05	-0.01	+0.2	+0.2	-0.8
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.7	-0.10	+0.00	+0.10	-0.04	+0.01	+0.05	+2.3	+0.2	-0.07
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.6	-0.06	+0.04	+0.10	-0.02	+0.03	+0.05	+1.0	+0.2	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.7	-0.15	-0.05	+0.10	-0.09	-0.04	+0.05	+0.2	+1.3	-0.3
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-1.0	-0.10	+0.00	+0.10	-0.08	-0.03	+0.05	+0.2	+1.3	-0.3
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.5	+0.07	+0.10	+0.03	+0.00	+0.05	+0.05	+0.2	-1.3	-0.3

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、PRAEVIDENTIA・ストラテジー

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+2.4	+0.16	+0.15	-0.01	+0.11	+0.11	+0.00	+0.4	+2.6	-5.4
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-1.3	-0.13	+0.02	+0.15	-0.03	+0.08	+0.11	+1.1	+0.4	-0.16
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-2.2	-0.26	-0.11	+0.15	-0.12	-0.01	+0.11	+0.4	+9.5	-0.8
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-1.8	-0.15	+0.00	+0.15	-0.18	-0.06	+0.11	+0.4	+9.5	-0.8
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	-0.4	-0.09	+0.06	+0.15	-0.02	+0.09	+0.11	+0.3	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.2	+0.09	+0.15	+0.06	+0.00	+0.11	+0.11	+0.4	-0.1	-0.8

(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、PRAEVIDENTIA・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：間隙を突く

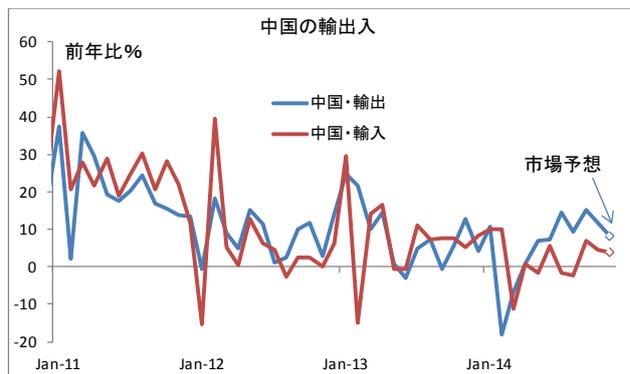
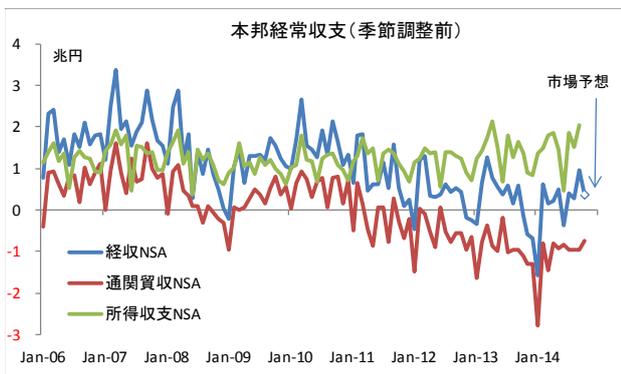
きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦 10 月経常収支・円	8 : 50	+9630 億	+3663 億	
本邦 3Q GDP 改定値・前期比年率	8 : 50	-7.3%	-0.5%	速報は-1.6%
中国 11 月輸出・前年比	11 : 00	+11.6%	+8.2%	
同輸入		+4.7%	+3.9%	
ドイツ 10 月鉱工業生産・前月比	16 : 00	+1.4%	+0.3%	
Lockhart アトランタ連銀総裁発言	21 : 30			ハト派、来年投票権あり

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は先週金曜の米雇用統計後のドル高基調が続くかが焦点だ。東京時間は本邦株価や本邦当局からの円安牽制がないかが注目されるが、株価については、先週金曜の米株上昇がプラス要因であるほか、円安化の輸出株押上げの方が輸入関連株押下げよりも大きければプラス要因となり、円安・株高の同時性に注目する短期取引が更なる円安に繋がる可能性が高い。円安の主な原動力が今回の選挙の争点にされたアベノミクスであることを踏まえると、与党・政府筋からの円安牽制は自己矛盾となるリスクを抱えていることから、平時よりも頻度は少なくなるとみられ、あってもせいぜい対症療法的な円安対策（円安の悪影響を受ける産業に対する支援など）に留まりそうで、14日の選挙までの政治的な間隙を突くかたちで円安ドル高が更に進む可能性が高い。

本邦では経常収支および3Q GDP 改定値が発表される。最近では経常収支への注目度は低いほか、3Q GDP 改定値も今となっては目先の日銀金融政策や増税に影響を与えないことから注目度は低い。3Q GDP の上方修正は、日銀の早期追加緩和や政府の増税先送りは一体何だったのか、という疑惑に繋がる可能性はあるが、だからと言って日銀が資産購入ペースを元に戻すわけではない。どちらかという、可能性は低そうだが更に下方修正された場合の、追加緩和期待と「日本売り」的な円売りを強めるリスクに注意したい。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641